

琉球大学学術リポジトリ

薬剤によるリュウキュウチクの駆除

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山盛, 直, Yamamori, Naoshi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20652

薬剤によるリュウキュウチクの駆除

ヤンバルの山に入った人でしたら、山の大半、特に稜線部の殆んどが、リュウキュウチク（ヤンバルダケ）の叢生地であることを記憶していることでしょう。

リュウキュウチク等ササの類は、土地に対する要求度が低く、適度の日光量が得られるところでは、何処でも良く繁茂する。地下茎で侵入繁殖するので、その根絶が困難である。そのため造林する上で、地寄せ、手入れに多くの経費を要し、造林失敗の一因にさえなっている。

リュウキュウチクの密生地では稚樹の発生や生育を困難にし、天然生林の更新や萌芽林の生育の障害になっているなどと、家庭ではヘチマ柵やヨシズでなじみの深いリュウキュウチクも、林業関係では障害物の一つになっております。そこで、筆者が1957～1959年に行った、Esteron 245によるリュウキュウチクの駆除試験の結果を中心にその駆除法の概要を述べて見ます。

Esteron 245

Esteron 245 は、除草剤の一種で、アメリカ、ミシガン州在の Dow Chemical Company 製品です。

向うでは、灌木類の枯殺剤として利用されているようです。その他、24-D や Dowpon 剤も使用テストして見ましたが、リュウキュウチクの枯殺剤としては、効果が顕著でありませんでした。

試験概要と結果

試験は、山中のリュウキュウチクの密生する場所で1試験区の大きさが6尺×6尺（1坪）で、溶媒にケロシンと水を用い、Esteron 245の濃度を1%、3%、6%となるような溶液を作り、試験区内のリュウキュウチクを、立

竹のまま、地上2フィートで切断、地際で切断の3つに処理し、2月、6月、10月の3回の時期に分けて、テストして見ました。薬液の散布は噴霧器を用いて、竹桿、枝、葉の表面が十分濡れる程度に散布しました。その結果だけを記しますと、散布後2カ年を経過した時点で、テスト前の生育竹の本数に対するテスト後に萌芽した竹の本数の割合は、3.4～8.8%でかなりの抑制効果があります。又筍の発生は、1年目の発生期には、全区とも全然発生せず、2年目でも一区平均0.9本の発生を見ただけで、効果が顕著であったことがうかがえます。溶媒別、薬液の濃度別、竹の処理別、散布時期別の効果の差異は、考慮する程の差異が認められません。以上のように枯殺効果のかなり高い結果が表れております。なおリュウキュウチクの密生地には、地床植生が殆んど見られませんが、2年目で他の植生が良く繁茂し（当然のことですが）地床植生の改善が顕著であったことも附言しておきます。

使用法

Esteron 245 は水に容易に溶解しますし、1%の濃度で十分効果があります。先づ噴霧器の中に水18ℓ（1斗）に対し、Esteron 245 180cc（1合）の割合で入れて良く混ぜて散布液を作ります。リュウキュウチクの竹桿は切断し易い所で、カマで伐った方が良いと思います。竹を立てたままですと枝葉全体に散布するのに作業が非常に困難になり、生き残りが多くなる恐れがありますし、又薬液を大量使用する事になりますので、なるべく切断した方が良いと思います。薬液の散布は、竹桿、枝葉の表面が十分ぬれる程度にします。散布後7～10日で葉色に変化しはじめ、20日頃には緑色を殆んど失い、40日頃で



写真は Esteron 245 の試験あと 1958年10月散布 リュウキュウチクは完全に枯死して他の植物が侵入している 筆者が右手をおいているのはウラジロカンコノキで散布後に自生したもの

落葉がはじまり、3ヵ月頃には竹桿、枝共すっかり枯れてしまいます。散布が十分でない場合は2~5ヵ月後に竹桿から萌芽する生残りの竹があるので、繰返し散布すると、完全な駆除がなされるものと思います。なお枯死した竹桿は、薬液散布後1年を経た頃には、人足で容易に折損し、2年を過ぎる頃には、その大部分は、自然に腐朽消滅します。

Esteron 245 は除草剤であるので散布時に薬液に触れた草類、稚樹類は全て枯死してしまいますし、伐根に触れると萌芽をしなくなりますので、使用に当ってはリュウキュウチク駆除後の林地の経営目的を十分考慮する必要があります。例えば萌芽更新を期待する林地内では、樹木の伐倒前にリュウキュウチクの薬液駆除を行う必要があります。また薬液散布後、雨の多い時期で1月半、少ない時期で2~3ヵ月の間は、植樹やタネまきは行っはなりません。なお薬液が人体に触れると、かゆくなり

ますので薬液散布時には、なるべく皮膚の露出部がないよう準備する必要があります。

経費の一例

経費は林地内のリュウキュウチクの生育疎密に大きく関係しますが筆者が1959年7月に琉大与那演習林で行った例を示しますと、下表の通りです。当該地はリュウキ

	数量	単価	金額	備考
Esteron 245	3.3ガロン	\$10.80	35.64	ha 当
竹桿伐採人夫	13人	1.04	13.52	1959.7月に実施
薬液散布人夫	4人	1.04	4.16	但し初回散布のみ
計			53.32	

ユウチクの密生地で、竹桿は造林カマで作業し易い所で切断しました。噴霧器は7升入れと1斗入れの2個を使用し、川(水)までの平均距離は40m、林地の傾斜は15~30度の場所です。
(山 盛 直)